

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さくらはうす
所在地 (県・市町村名)	鳥取県鳥取市覚寺180
記入者名 (管理者)	尾崎りつ子
記入日	平成 19 年 8 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念の下、利用者が地域の中でその人らしく生活できることに取り組んでいる。見やすい場所に理念を掲げ職員は常にそれを念頭に介護に当たっている。理念の中に“地域”を意識した言葉がない。また利用者と共に考えた生活理念を利用者が見やすい場所に掲示し、皆で協力して楽しく生活するために役立っている。	○	地域住民との交流が図れるような理念を職員全員で作りに上げていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	“ゆっくり”、“一緒に”、“楽しんで”の精神を大切に理念に基づいた取り組みが行えるようにスタッフ会議や日々のミーティングで話し合っている。ケアを話し合うなど普段から意識している。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	地域の代表者に運営推進会議の委員になっていただき、また地区内で広報誌を回覧してもらうことで理念の理解を図っている。家族へは毎月のお便りに理念を記載している。	○	立ち寄りやすくなるよう顔なじみになるためにも、地域の活動に参加していく。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	入居者と共に日常的に地域のスーパーや薬局で買い物に出かけ、店員や子供連れ客との交流場面が見られている。民家が少し離れているため、気軽に歩いて来られる環境ではないが顔見知りにならないと難しい。職員が出勤時、近隣の方に出会った時は笑顔で挨拶するよう心がけている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の幼稚園児との交流会を定期的に行っている。また法人主催の納涼祭などの行事に参加することでそこを訪れた地域住民と交流する機会もある。毎年、地区の敬老会に参加している。広報誌も利用者と共に公民館、学校などに届けている。以前は、地区公民館の囲碁クラブに通う方もおられた。活動を共にするボランティアの来訪が定期的にある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現場のケアスタッフが直接地域の高齢者に関わることは少ないが、広報誌に認知症の理解に関する記事を載せ、地域に配布することで認知症や介護、グループホームに関する情報を発信している。運営推進会議にて地区の民生委員の方などから認知症に関する質問を受けることもある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価に取り組み、日々の振り返りと客観的に自己を見つめなおす機会になっている。職員により違った視点の意見があり、視野も広がりより良いケアに向けて取り組む機会にもなっている。結果は全員が確認し良い所はさらに伸ばし、改善点を検討するようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き、現状報告、意見交換が行われている。茶話会も行い、地域の人々、家族、職員の和やかな情報交換の場となっている。今後もサービスの向上へ会議を活かしていくよう努める。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が医療部門の業務と兼務しているため、市担当者と話し合う機会は多く持っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方が1名おられる。後見人の方とも情報交換でき、現実に即した制度の学習の場になっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加するなど認識を深め、全職員で予防に努めている。法人内にコンプライアンス制度が発足し、直接グループホーム内で報告しづらい場合でも相談しやすい体制になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時は管理者が利用者や家族と面談し、将来的なことも含めて重要事項説明書を基に十分な説明をし、じっくりと疑問点などを話し合った上で契約をしていただいている。解約時にも入居者、家族が困ることのないようソーシャルワーカーと連携し対応している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の生活の中で利用者の言葉や行動の中で不満や思いを理解するようにしている。主治医からも受診時に今困っていることについて聞いてもらっている。見やすい場所に意見箱を置いている。また日頃から入居者自身、また家族を通して常に話し合い、思いを聞くように心がけている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>管理者と担当者が利用者の日々の暮らしぶりや健康状態を手紙にし、毎月家族へ送っている。手紙には請求書と1カ月分の小遣い銭の明細も同封し金銭の管理も明確にしている。また家族来訪時や必要に応じて電話で状況報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口の案内を掲示し、ご意見箱も設置している。また家族来訪時に積極的にコミュニケーションを図ることで意見を言いやすい関係作りに努めている。またケアプランのサインをしていただくときに要望や苦情なども伺っている。また法人内に苦情処理システムがあることを手紙や掲示で伝え、利用を呼びかけている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々のミーティングや月一回のスタッフ会議また折りに触れて職員の意見・要望を話し合っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に合わせ、その都度可能な限り対応が行われている。また、行事や外出など必要に応じて当日の日勤スタッフを増やすなど柔軟な対応ができるように勤務を調整している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの関係が保たれるよう心配りをしている。異動の時期をずらすなど工夫し、一度に顔ぶれが変わらないようにしている。異動職員の紹介も混乱が少ないタイミングを計りながらわかりやすい言葉で個々人に説明などしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から面談を行うことで意向に沿った援助となるように努めている。居室の状況によっては短期利用を勧めたり、ソーシャルワーカーを通して在宅で利用できるサービスの相談も実施している。環境に慣れ、安心して過ごせることを中心とした初回ケアプランを立て実施している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に家族、本人と施設を見学していただき、早く馴染んでいただくように工夫している。ショートステイの申請済みであり、居室の状況によっては短期利用でお互いに理解しやすくすることもできる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で共に支え合い、喜び合い、励ましあったりと“お互い様”という気持ちで過ごせるように関わっている。また人生の先輩である利用者から学ぶことを大切に職員自身が成長する機会となっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者がその人らしく暮らせるように家族と協力し合える関係作りに努めている。職員だけでは対応が困難な場合など家族に相談し必要な物を揃えてもらったり声をかけていただいたりと家族だからこそ可能な対応で協力していただいている。家族によっては職員任せなこともあり、家族と職員の想いが共有できていないと感じることもある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が疎遠とならないよう、家族会へ参加を呼びかけたり、電話や手紙で近況報告に努め、家族との関わりを継続できるよう心掛けている。いつでも面会を受け入れ、簡易ベッドなどを準備しホームでの宿泊も可能。また、家族との外出や外泊の支援も行っている。特技を活かし家族へのプレゼントを作成するなど個々に応じてスタッフが間に立って双方のより良い関係作りの支援を行っている。しかし面会の少ない家族もあり、良好な関係作りが出来ていない部分もある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へのドライブや入居前に通っていた飲食店へ職員の付き添いで出かけるなど生活の継続性を大切にしている。また長年の趣味の仲間との交流が現在も続いている利用者もある。ケアプランに取り入れ、職員も積極的に関係が途切れないように働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事活動を通して、それぞれが役割を持ち、利用者同士の関係性を持てるような場面作りをしている。個々に合わせた言葉かけで利用者同士の良好な関係作りに努めている。その一方で日常での小さなトラブルは大事に至らなければ過剰な介入はせず入居者同士の自然な人間関係も大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時は、仲の良い他利用者とともに面会に出かけている。医療スタッフへの情報提供やソーシャルワーカーと連携をとり対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者の想いや希望を把握していくよう努めている。時には家族にも相談しながら支援をしている。日常的に話をじっくり聞くようにし、アセスメントとしてケアプランに活かしている。自らの思いを言えなかったり、不明な場合はこちらから問い掛けたりジェスチャー、物を見せるなど工夫して気持ちの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でアセスメントを行い、本人や家族からこれまでの生活歴や想いなども聞き、なるべく多くの情報を得るようにしている。折りに触れ、それまでの生活や人生観などさりげなく話題にし、把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれの生活背景を踏まえ、個々に合った生活リズムを把握するように努めている。残存能力に注目し、利用者の可能性を引き出すことを大切にしている。連絡ノートなども活用し職員同士で情報交換しながら一人ひとりの状況把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを行い、本人の思いや意見を聞きながら、職員間では日頃のミーティングと月1回全職員での会議を実施し、面会時に家族と相談するなど意見、要望などを介護計画に活かしながら作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	平常時でも1カ月ごとに計画の見直しを行い、現状に即した計画になるようにしている。状態が変化した時は、本人家族の思いを聞き、その都度計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にフォーカス用紙、食事量、バイタルチェック表などに記入している。特に注意することは連絡ノートを職員間で回覧し、全員が把握しやすくしている。利用者の暮らしぶりを個別記録に残すことで情報の共有化を行い、次の介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ施設として認可されている。また隣接病院のデイケアセンターも必要に応じて利用することができる。病院が隣接しているので医師、看護師だけでなく、ソーシャルワーカーやリハビリ担当者、栄養士などそれぞれ専門的なアドバイスを受けやすい環境にある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	楽器演奏、話し相手などのボランティア訪問が定期的にある。時々図書館や公民館活動も利用している。地域からのボランティアの受け入れやその人的資源を活かした関わり合いに取り組んでいる。広報誌にボランティア募集の記事を載せ地域に呼びかけている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ニーズに応じて隣接病院内のデイケアセンターやリハビリを利用している方もいた。また入院や他施設の紹介、介護機器の利用サービスなどケアマネジャーやソーシャルワーカーと相談している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度を利用している方が1名おられるが、現在のところ直接、地域包括支援センターとの協働は行っていない。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接病院の医師が主治医となり定時、臨時に受診している。また、歯科や皮膚科は地域に協力医を確保しているが、本人家族の希望でなじみのある医師を受診することもある。体調不良の時は臨時受診や医師への電話相談、必要な時は往診が受けられる体制になっている。法人外の受診時は、基本的に家族の付き添いで実施、事情により家族の付き添いが困難な場合は職員が付き添っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分自身が気をつけ、他スタッフの対応にもお互いに注意している。一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保には常に配慮している。日々の生活の中でプライバシーの保護記録などの個人情報の取り扱いの徹底に努めている。トイレの促しをさりげなく行ったりトイレの中ではカーテンを閉めたりと配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	家事などの活動をしながらの会話で興味を探ったり、話す時は相手に合わせ本人の納得を大切にしている。常に自己決定を促し、また本人の理解しやすい言葉動作で接するよう気をつけている。判断が困難な時は選択できるような問いかけをしている。一対一でじっくり会話することを大切にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に配慮し本人なりのペースで過ごせるようにしている。できることとできないことを把握した上で買い物や散歩などの希望があれば一緒に時には一人でも行ってもらっている。利用者一人一人のペースを大切にし、想いを受け止め、そのために職員同士で話し合いをし支援していくよう努めている。	
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望するみだしなみが自由にできるようにしている。必要に応じて季節に合った衣類調節などを支援している。特に希望の店がない場合は隣接病院内の理容室を利用しているがなじみの美容室を利用している方もある。家族の付き添いで出かける場合もある。行事などで希望により化粧、おしゃれ着を支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が得意な人、片づけが得意な人などそれぞれの力を発揮しながら食事に関わっている。準備、片づけを楽しく会話しながら行っている。気を入りの食器を使い、楽しく食事ができるよう食卓の配置や手作りのランチョンマットなどで工夫している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自分の飲みたいときにコーヒーなど飲んだり、一緒に好物を買いに出かけたりと支援している。嗜好品は希望に応じて出すようにしているが、たばこは原則禁煙である。好きな食べ物飲物を把握し、楽しみの一つとして提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を必要に応じて作成し、本人に合わせた援助・介助をしている。特に排泄パターンを把握し、トイレ誘導を実施し、なるべく失敗が少なくできるようにしている。排泄チェック表を利用し、トイレ誘導にてトイレで排泄できるよう支援している。パッドなどの使用については本人の状態、体調の変化に応じて個別に十分検討したうえで使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の気持ちや入浴しやすい時間を聞きながら行うようにしている。入浴を嫌がる方には対応の工夫をしている。職員の少ない夜間の入浴は安全を考慮し実施していない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望する時間の起床や午睡を支援しているが、生活全体のリズムを考え不眠の場合、日中の活動を意識的に取り入れている。就寝時間はそれぞれの生活パターンを基本とし一律に決めていない。また、行事やおやつ作りなど季節感やなじみの活動を取り入れ楽しんでいただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とする作業、散歩、畑仕事など個々に応じた生活ができるようにしている。本人の希望を叶えたり、喜ばれそうな所へ出かけた日と日々の活動を考えている。職員は入居者それぞれのできる事できない事を把握し生活の中で役割を持てるよう支援している。本人の楽しみ事をケアプランに取り入れ実施している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金で買い物をすることもあり、支援できている。短期記銘の悪い方でも家族と相談し本人の納得する小遣い程度のお金は本人に任せている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の新聞とり、散歩、買い物など日常的に外出している。買い物希望があればできるだけその日に出かけるようにしている。歩行困難な方は車椅子の利用で他の方と同様に掛けるようにしている。グループホーム専用の車があり、イベントや買い物利用している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ケアプランにそって墓参り、寺社参拝、外食などに出かけている。個別に墓参り、外食、美術展観賞など本人の希望する外出は、スタッフが調整し家族の協力などで外出支援している。年2回家族会があり、そのうち1回はドライブであやめ池や湯村方面など遠出を楽しんでいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で自由に手紙を書いたり電話を掛けていただいている。グループホーム内に公衆電話を設置している。手紙が届いた時は返信をすすめている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は特に定めずいつでも気軽に訪問していただけるよう笑顔での対応を心掛けている。談話テーブルにアルバムなど置き、会話の助けになるようにしている。希望があればいつでも宿泊できるように準備をしている。訪問時はお茶や椅子をすすめ、明るい対応を心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は開錠し、拘束は行っていない。身体拘束の勉強会で全職員が理解の上、拘束のないケアに取り組み、ミーティングの時に日々の状況を確認しあっている。鍵をかけるのは拘束だと認識し、身体拘束はありえないと考えている。夜間転倒などの危険性がある場合は、居室確認の回数を増やすなどの工夫で対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外の鍵は掛けないことを職員全員が認識している。利用者が外出した場合は、全職員で見守り方法を統一し、さりげない声掛けで対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、居間に姿が見えない時はさりげなく所在を確認するようにしている。日中は玄関ドアは開放している。玄関ドアと夜間、死角になりやすいトイレドアには鈴をつけ職員が出入りを察知しやすくしている。夜間は一時間ごとの巡視と23時と3時に居室確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に応じて保管場所を変えるなど職員で相談するようにしている。浴室の洗剤類などは鍵のかかる棚に入れたり、利用者によっては物品を他へ移すこともある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	講習を受けたり、災害時マニュアル、緊急時マニュアルを常備している。ヒヤリハット記録や事故報告書を回覧することで全職員に周知し、予防に努めている。日常の様々な場面で見守りし、事故防止には注意を払っている。マッチ、ライターなど危険物の持ち込みは説明の上、禁止している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	今までの3年間で1度全員で訓練をした。定期的には行っていない。同じフロアに病院があるため、緊急時はすぐに医療スタッフが駆けつける体制になっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との協力はできている。災害訓練での避難方法は実施できているが地域の人々の協力体制はグループホームとしては整っていない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には近況を報告し、心身状態の変化に伴い今後起こりうるリスクについて常に話すようにしている。日頃の様子を月1回の手紙で報告し、来訪時相談するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、定時に検温など実施し体調の変化を察知し、表情・動作など異変に気づいた時は、職員間で情報を共有し、速やかに医療スタッフへ連絡・相談している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の表をすぐに閲覧できるようにファイルにしている。各個人の薬の目的、副作用などを理解しており、服薬の支援と症状に変化を把握することに努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表で排便状況を確認し、個別に水分補給、適度な運動、好みに合わせヨーグルトや食物繊維入り飲料をすすめるなどで便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケア実施に取り組んでいる。義歯の洗浄、歯ブラシ・コップ消毒を定期的に行い、清潔の保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の様子観察と水分摂取量をチェックしながら不足気味の方にはジュースなどで補給している。食事量、水分摂取量を記録し情報共有している。献立にカロリー記入と定期的に栄養士からアドバイスをもらいバランスを考えての献立作りに努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルを作成し、予防対策に努めている。また定期的に勉強会に参加している。利用者、職員共に毎年インフルエンザの予防接種をしている。外出後は手洗い、うがいを実行。病院内の医療感染委員会からの情報を職員に伝達している。感染した時は速やかに受診するなど拡大防止に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	普段から新鮮なものを購入するよう心がけ、鮮魚など生ものは当日購入している。調理後はしっかり洗浄・乾燥に努め、包丁やまな板は毎日塩素系漂白剤で消毒している。冷蔵庫、台所用品の掃除チェック表を基に徹底できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	下玄関に手作りの案内板を立て、ベンチや花のプランターで入りやすい工夫をしている。ベンチは隣接病院の患者様やバス待ちの方も利用されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには季節の花を掛け椅子には座布団など手作りの品を使い、心地よく過ごせるようにしている。フロアの飾りつけは利用者と一緒を作り、場所も一緒に考えて飾っている。生活感、季節感を工夫しながら生活に取り入れている。テレビだけでなく、ラジオやBGMを聴きながら作業したり、窓が広いので明るすぎる場合はカーテンなどで調整するようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置いて集まりやすくしている。玄関ホールにもテーブルや椅子を置いて少人数で活動できるスペースとしている。	○	洗濯干し場を活用していつでも活動できる場所として環境を整えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、時計、ラジオを持ってきていただき、希望者は仏壇も置いてある。家族や外出時の写真なども飾り、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングに温度計を設置し換気、冷暖房、扇風機を併用して利用者の様子を観察しながら調整に努めている。冬は加湿器を使用している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用廊下などには手すりを多く配置して伝い歩きができるようになっている。トイレ、浴室にも手すりを設置し自立又は安全に努めている。トイレの便座は高低違うものを設置している。洗濯干し場の物干し台が高いので利用者自ら干したり取り込んだりが自由にできるように工夫が必要である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の段階に応じてその都度自立した生活が送れるよう状況に合わせた環境整備に努めている。トイレ、浴室の扉にはわかりやすくのれんや目印をつけている。各居室のドアにも表札やのれんなど個人に合わせた手作りのものを設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外玄関や通路にベンチを置いてくつろいだり畑に野菜や物干し場にも花を植えて活動できる場所としている。少し離れている敷地内に畑を作っている。利用者が日常的に物干し場の活用ができていない。(憩う、仕事する、日光浴をするなど)		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	①毎日ある
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="checkbox"/>	③たまにある
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="checkbox"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/> ②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/> ③たまに
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/> ③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
##	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・全体にゆったりと楽しく毎日の生活ができている。「ここに来て毎日がたのしい。」と感想を話してくださる利用者もいる。
- ・利用者それぞれが、マイペースで生活する中、食事作りや掃除、洗濯物の始末など家事活動の中で所要所では役割を果たしている。能力や興味に合わせた活動とした表情につながっている。
- ・利用者個別の活動も重視している。長年なじみのある飲食店に出かけたり、趣味の仲間との交流を入居後も続けるなどで、個人の時間を持つことが生活の楽しみ
- ・共同生活なのでちょっとした口喧嘩があることも含め、利用者同士の良好な人間関係ができている。入居時、ほとんどコミュニケーションが出来なかったのに三た方もいる。



が出来ることが気持ちの張り合いにつながり生き生き  
になっている。  
年後の今は笑顔で冗談を言うことができるようになっ